

第4回経営審議会までのご意見(川越市上下水道ビジョン原案)

No.	回	目次	頁	意見等・質疑内容	審議会での対応	記載頁	ビジョンの修正
1	1	1.2.1 計画の位置づけ	2	計画の位置づけ、基本理念等の説明の中で、川越市の総合計画との整合性について補足的な説明をしてほしい。	第四次総合計画で示す「水道水の安定供給」、「治水事業の推進」、「公共下水道事業の充実」を上下水道ビジョンに反映できるように作成している。		特になし。
2	1	1.1 策定の趣旨	1	人口減少社会において、国、県等からもコンパクトシティを目指すような指針が出ているがこの様な課題は、考慮されているのか。	ビジョンの持続、健全な経営、経営基盤の強化という項目を示して、提案させていただいている。		特になし。
3	1	1.1 策定の趣旨	1	高齢化や人口減少により、病院や人口が市の中心の方に移ってくると今の水道施設、下水道施設について、意識しながら整備し、無駄な投資にならないような検討はしているのか。	水道事業、下水道事業の必要性を考慮したうえで事業を進めていきたいと考えている。		特になし。
4	1	1.3 基本理念	3	「快適な水辺空間」との記載があるが、川越市は川に囲まれているが、川に流れている水に関してはどのように把握しているのか。	水質について、公共下水道では、処理場で放流水質、特定事業場等は、市で検査、指導などもしている。また、市民に対しては、家庭での排水時の注意事項等をお知らせし啓蒙を行っている。		特になし。
5	1	1.2.1 計画の位置づけ	2	川越市の上下水道ビジョン策定において、国会でも広域化、民営化、コンセッションなどが議論されているが、その様な国の動向などの資料を提供していただきたい。	水道法の改正等国の動向については、次回、簡単にまとめたものでお示ししたい。	71	事務局で加筆修正。
6	2	1.4.4 施設の状況(3) 管路	11	水道管路の管種別の割合では、塩化ビニル管、ダクタイル鋳鉄管、配水用ポリエチレン管の3種で全体の99%を占めていることと、耐震化の考え方で、ダクタイル鋳鉄管と配水用ポリエチレン管の2つの割合と耐震化率20%が一致しないことの方を教えてください。	耐震化の考え方については、継手に耐震性がないと管全体が耐震管とみなされない。以前に布設をしていたダクタイル鋳鉄管については、継手に耐震性がないので耐震化率から除く。硬質ポリエチレン管については、現在布設している管は全て耐震性を満たしている。		特になし。
7	2	1.5.4 施設の状況(1) 管路	19	続けて下水道の方の考え方も一緒によろしいですか。鉄筋コンクリート管が69%、硬質塩化ビニル管が25%、けれども耐震化率は15%という考え方を。	平成11年度以降に布設したもの、及び一部管更生や布設替えをしたものについては、耐震化として数字をあげている状況である。		特になし。
8	2	1.5.4 施設の状況(1) 管路	19	耐震化にはかなりお金がかかると考えてよろしいか。	まだまだお金はかかると思われる。		特になし。
9	2	1.4 水道事業の概要	4	この「川越市上下水道事業の概要」というのはどういう報告書の位置づけなのか。	このあと説明させていただく第2章の方で現状と課題をあげさせていただき、後日、第3章で現状と課題に対する施策を御説明させていただきたい。		特になし。
10	2	1.4.3 水源	7	私は南大塚に住んでいるが、県水だけを飲んでいるのか、福原の水はまったく関係ないのか、一体どこの水を飲んでいるのかその辺がどうしても分からない。大変初歩的な質問で申し訳ないが、その辺を教えてください。	基本的には、中福受水場で受けた県水を委員のお住まいのあたりに配水している。水の需要の多少により、新宿浄水場や他の所から地下水を一緒に混ぜて最終的には配水している。県水と地下水の比は、基本的に9対1ぐらいだと認識していただければよいと思う。	7	水源系統図を追加。
11	2	1.4.3 水源	7	水源について伺いたい。今、話にもあったが、9対1の数字の根拠を教えてください。	県水の運用について、協定の中で平成12年度に川越市を含む県西部は9割くらいとしたことを受け、残り1割は地下水で運用している。今後については、そのバランスを協議している段階である。		特になし。
12	2	2.1.1 安心	24	協定の中で決めてある数字だということでは理解をした。今後、水需要が減っている中で、この相対的な9対1という比率がこれから先どうなるのか。減った分はどちらを減らしていくのか。地下水を利用し地盤沈下の影響について科学的な根拠等があれば、また後日でも教えてください。	15%くらいまでが目標である。その点については、私どもとしてもそのくらいの取水能力はあり、漏水等の際にもある程度は対応できると考えている。		特になし。
13	2	2.1.1 安心	24	市が自らの水源を持つということは、リスクの面からは必要だが、施設の維持管理費がかかる。全量を県水となると、維持管理費だけを考えれば、井戸を持たない方がいいのではないか。	41本の施設を普段は全部使っていない状況であるが、リスクの部分として考えている。井戸の維持管理費もかかっており、経費の削減に繋がるのではないかと話もあるが、日常的な運営をする上でも地下水は必要ということで御理解いただきたい。		特になし。
14	2	1.4.5 経営状況	13	水道大口需要者の地下水転換に伴い、地盤沈下を抑制するための規制はあるのか。	県である程度の条件を付けて許可を出しているのではないかと考える。		特になし。
15	2	2.1.1 安心	24	漏水等の災害時に24時間フル稼働した場合、一日あたり何m ³ の取水ができるのか。井戸だけで実際に一日最大でどれだけ取水することができるのか。	過去最大取水量が一日約29,000m ³ であるが、あくまで瞬間的な量である。現在一日で出せる最大量としては、15,500m ³ ぐらいだと認識している。		特になし。

第4回経営審議会までのご意見(川越市上下水道ビジョン原案)

No.	回	目次	頁	意見等・質疑内容	審議会での対応	記載頁	ビジョンの修正
16	2	2.1.1 安心	25	今まで貯水槽式だったものを直結式に替えたいという場合はマンション側がその管の工事含めて全額負担しなければならぬのか。何か補助のようなものはあるのか。	直結式の給水については拡大をしていきたいと考えているが、どの地域でも直結式にできるというわけではない。地域によっては水圧が低い地域もあり、道路の管の水圧を見て直結式は難しいときは、敷地内に増圧の施設を作っていたりするようなお願いをしている。		特になし。
17	2	2.2.1 生活環境の改善と向上	34	未普及対策の課題に関して、以前は市街化調整区域の方でも、合併浄化槽と比べて公共下水道の方がまだ費用対効果として高いというのが上下水道局の考え方だったと思うが、このビジョンの中では、今後下水道事業以外の生活排水処理事業と調整をとり、進めていくことが必要という内容がある。いよいよ下水道の地域と合併浄化槽でないといけない地域の住み分けを考え始める時期に入っていると考えた方がよろしいか。	今後見直しをかけていく必要があると認識している。市街地に比べ市街化調整区域では一本の管で接続する件数が少なくなり、費用対効果に問題がある。また、今後の人口が減ると便利な所に移り住んでいき、今後市街化調整区域に下水道を広げていくというのは見直しを検討していかなければならないと認識している。		特になし。
18	2	2.2.1 生活環境の改善と向上	34	以前よく議会で、市街化調整区域全部を整備するのに、単純にあと100年かかるという話を聞いた。下水道計画の計画区域を変更することが中々難しいという話を聞いたことがあるが、以前に比べればできやすくなっているのか。	これから県とよく調整をしながらこちらの事情を説明して、全体計画の縮小が可能かどうかを協議していくような状況だが、決して以前よりできやすくなったということはない。ただ、今後そういうことも含めてしっかりと動いていかなければならない。		特になし。
19	2	2.1.2 安定	28	川越市内は広く、古谷水道復旧資材倉庫一か所で全域、大丈夫なのかと漠然と感じている。	古谷の倉庫は、主に重要配水管というか、市場に出回りにくい非常に大きな管の材料を用意している。その箇所数については、市内全域に同規模の倉庫を設けるというのは非常に厳しい状況である。		特になし。
20	2	2.1.3 持続性の確保	29、43	上水・下水両方とも最近赤字になってしまうということについて、収入の方が減るというのは分かっているが、費用がだいぶ増えていく原因を教えてください。	一定量の管路延長や資材の維持管理をしていくためのお金が必要である。それに対し、収入の方が減ってくるので結果的に赤字の方に転落してしまっていることである。		特になし。
21	2	2.1.3 持続性の確保	29、43	市は中期に向かって料金体系をどう考えているのかを教えてください。	高度成長期に造った多くの施設が老朽化していき、更新費用がかかるという現状の話までである。費用負担については現在考えてない。現状では、ある財源の中でできる限りのことをやっていく。		特になし。
22	2	2.2.3 持続性の確保	41	一般的に鉄筋コンクリート管の腐食による舗装が陥没したということ現象は、川越市でも起き始めているのかどうか聞きたい	下水道管が腐食されて中の鉄筋が露出する現象は、サイフォンのような、汚水が溜まるような所で発生をする。そういう所では、やはり川越市でも見られ、点検を行いつつ修繕を行っている。		特になし。
23	2	2.2.3 持続性の確保	43	グラフでは、収入が減りながら支出がずっと一定になっている。維持管理や更新が必要でありながら、支出が一定になっているというのは少し不自然な気がするが。	維持管理費の支出を表しており管の更新や入れ替え費用とはまた別の話である。		特になし。
24	2	2.2.1 生活環境の改善と向上	35	現在把握している中で下水道が整備された地域における未接続の件数やその理由は何のようなものか。	平成29年10月25日現在の下水道の接続状況のデータを報告。未接続の理由は、市街化調整区域では、すでに設置されている浄化槽がまだ丈夫で、それが壊れるまでは接続しないということがある。さらに、受益者負担金の支払いや接続に係る工事費といったお金がかかることから、接続率が上がらない状況だと思われる。	62	行っていることを記載。
25	2	2.2.1 生活環境の改善と向上	35	浄化槽もなく、公共下水道に接続もせずに川へ垂れ流しているような家庭もあるように聞いているが、どの程度把握されているのか。	現在のところ、そういったケースは把握していない。		特になし。
26	2	2.2.3 持続性の確保	43	下水道の有収率は記載されていて、水道の有収率のグラフが入っていない。(意見)	未回答	26	図表・グラフを追加。
27	2	2.2.3 持続性の確保	43	下水道の有収率について、全国平均と比べるとこれは異常である。過去から対策がなされていないということではないか。	私どもも大変大きな課題として捉えている。今後、老朽管の更新と併せて管の入れ替え、あるいは更生を行っていく中で改善を図ってきたい。また、明らかに不明水が浸入しているような箇所については、積極的に対応していかなければならない。	83	具体的な方法を整理し追記。

第4回経営審議会までのご意見(川越市上下水道ビジョン原案)

No.	回	目次	頁	意見等・質疑内容	審議会での対応	記載頁	ビジョンの修正
28	2	2.2.3 持続性の確保	43	不明水の量は、同規模都市と比べて、川越市は10%程度多いということか。	他市に比べると、下水道に対する有収率は若干よくないというような認識でいる。		特になし。
29	3	3.3.2.1 安全	49	見方を教えて欲しい。例えば49ページを見ると、上部にある3.2.1の隣に、四角で囲ってある「安全」が48ページの基本体系の表内で言う施策方針で、「(1)水質管理」が基本施策で、「1)水質管理体制の強化」が事業で、「具体的取組」がPDCAのD、「評価指標」がCにあたるということによるのか。	見方は、ご理解の通り。4章の進捗管理で再度説明する。		特になし。
30	3	3.3.2.1 安全	50	50ページに水安全計画のイメージとあるが、これはイメージの図なのか。きちんとした計画のように見えるが。	水安全計画は法に従ったもの。イメージを取る。	52	図を修正。(PDCAの図の対応)
31	3	3.3.2.2 循環	57	「NOx」等の用語は、市民が解っているという前提か。	専門的な用語については用語集を作成します。	資料5	用語集への記述。
32	3	3.3.2.2 循環	58	58ページにあるブロック化というのがどういふものか分からないため、教えていただきたい。	水道管の管網が市内に蜘蛛の巣のように配置されている。シミュレーションから3つのブロックにすることで、震災対策、電気効率の効果が、見込める。	資料5	用語集への記述。
33	3	3.3.2.1 安全	50	水安全計画運用の具体的取組の中で、水安全計画運用会議とあるが、これは事務局が行うのか。誰が中心となって行うのか。	事務局を上下水道管理センターとし、関係する課で運用しています。		特になし。
34	3	3.3.2.2 循環	57	各種の環境対策の具体的な取組に関連して、川越市上下水道局または市でも構わないが、電気自動車は所有しているか。	市として2台所有しています。上下水道局では0台です。		特になし。
35	3	3.3.2.1 安全	49	評価指標の目標欄に平均残留塩素濃度が0.1以上0.4以下と記載がある。それに関する具体的取組が、「残留塩素濃度の平準化・低減化を図ります」となっているが、低減化を図るための具体的な説明になっていないように思われるのだが。	法律上、末端において0.1mg/l以上おいしい水が0.4mg/l以下になるように塩素注入量を調整する方法を検討。具体的な方法は。	51, 61	具体的な方法を整理し追記。
36	3	3.3.2.1 安全	51	小規模貯水槽の検査についてだが、点検・検査受検率2.9%というのは、全国平均で言うともいふ方なのか少ない方なのか。また、年に1度の点検・検査の受検率が2.9%なのか。	埼玉県資料で10市調べたものありまして、全体で2.4%です。低いところは川口市1.4%、高いところでは草加市4.3%です。点検検査は年1回受けたものです。		特になし。
37	3			全体を通して課題が多すぎると感じる。問題だらけの組織である。施策と課題が繋がらない。長期なのか短期なのか、重要度が高いのか考慮して整理すべき。	未回答	24, 47	第2章の課題が、第3章のどの施策に示されているかを付加。中でも重要な施策を抽出し付加。
38	3	3.3.2.2 循環	60	具体的取組にある接続指導を強化しますという部分については、具体的に今何をしているのか。結局、未接続の問題はずっと変わっていない。対策指数などを設けてやっているのか。	3年以内の接続をお願いはしているが、罰則規制はない。お願いに止まる。(下水道課長)	62	行っていることを記載。
39	3	2.2.1 生活環境の改善と向上	37	排水規制については、下水道基準等に適合していない特定事業者が依然として6~7%ありますと書いてあるが、それらの事業所を指導していないのか。今後の課題にしている場合ではないと思う。	年2度の指導はしている。(センター長)	37	行っていることを記載。
40	3	3.3.2.4 持続	81	不明水についても先日挙げられた課題にあったが、それも含めこの3つの事業について、方向性は記載されているが、実際どのようなことをしているのか教えていただきたい。	原因については、調査を行っている。また、県が調査するので、併せて進めて行く。昨年の台風21号に関連する箇所も調査している。	83	行っていることを記載。
41	3	3.3.2.2 循環	56	「雨水浸透のイメージ」から市民は何を貢献できるかわからない。新築の家には義務付けセットで売するような働きかけをすべきでは。具体的に。	500m ² 以上の民間開発については、強制的に設置、個人によるものは、強制力はないものの補助を出して進めている。(下水道課長)	58	行っていることを記載。
42	3	3.3.2.2 循環	58	配水エネルギーの低減化に効果のある県水の直送方式とあるが、先程のブロック化に関連してこういうことがありうると理解してよろしいか。	それぞれ別の取り組みである。落差発電も今後の検討すべき内容である。		特になし。

第4回経営審議会までのご意見(川越市上下水道ビジョン原案)

No.	回	目次	頁	意見等・質疑内容	審議会での対応	記載頁	ビジョンの修正
43	3			課題にどうという風に取り組むのかというのが見えづらい。その原因は、国から上下水道ビジョンの策定を指示され、おおよその枠組みが決まった状態で策定しているため、一般的な話と川越市特有の事情に基づく課題とが一緒になっていることにあると思われる。そこで、地理的状況や湧水などを含めた川越市に特徴的な部分や、また、川越市で既に行っていることと、それに対する課題や成果に対する言及や分析等がもう少し記載されると分かりやすいのではないだろうか。そんな感想を持った。	未回答	47	中でも重要な施策を抽出し付加。
44	3	3.2.2 循環	60	生活排水処理の適正化というテーマの中で、市街化調整区域の下水道整備について、従来と方向性を変えるのか、それとも従来と一緒なのかという部分だ。	基本的な考え方としては、既認可区域については、実施する予定である。それ以外について、環境部と調整しながら検討して行く必要があるかもしれない。		特になし。
45	3	3.2 上下水道事業の基本体系	48	経営基盤がしっかりしていないと、耐震化も維持管理も出来ない。官民連携も維持管理につながるし、基本体系の関連がわかりにくい。他の整理が出来ないだろうか。	各事業にはそれぞれその目的、効果があります。事務局においても市民に伝わりやすいものはどのようなものか議論した結果であるので、ご理解いただきたい。	目次, 24	第2章の課題が、第3章のどの施策に示されているかを付加。
46	3			もともと第4負担区が平成7年度に設定されて、その時点では、何年で整備が終わる予定だったのか。	事業認可は5から7年で整備するものとしていましたが、実際には伸びています。		特になし。
47	3			当時の事業管理者は、第4負担区の整備を、平成32年には間違いなく終わらせると言っていた。それが先程の話だと、それすらまた守れなくなったということか。	老朽化対策にも着手する必要があるがあった。維持管理にも力を。少しずつたか進めている。		特になし。
48	3			市街化調整区域においては、下水道が通っても通らなくても困らないところもあれば、下水道が通らなければ住むことができない家もある。そういった状況のなか、上下水道局は、いつまでに整備を終わらせるとか、こういう計画でやっていくといった答弁を、議事録にずっと残してきている。そういうところをよく踏まえて、しっかり考えてやってほしい。	未回答		特になし。
49	4	3.2.3 強靱	67	マンホールトイレの整備については、下水道管の耐震化と併せて計画的に設置していくので、市民が安心して使えるという解釈でよろしいか。	その通りである。今後は、避難所等の施設から排水管を重要な管として、耐震化の整備を行っていく。耐震化することでマンホールトイレが機能するという認識である。		特になし。
50	4	3.2.4 持続	69	民間委託は今後も進めて行くのか。どのようなものなのか。	料金の徴収等を民営委託しています。今後、効率性や経済性を踏まえ検討して行きます。窓口業務のセルフサービスも試案中。		特になし。
51	4	3.2.4 持続	82	出前講座の実施回数が現状”0”の理由は学校の総合学習において、経営審議会でも聞いたことは生活に密着しておりを積極的にPRしていくことで、環境保全・節水につながる。	今後は、機会を見つけて積極的にやっていく。		特になし。
52	4	3.2.4 持続	74	川越市特有の課題が見えずメリハリがない。この時代だからこそ、具体的なものが見えてこない。AIの発展等の新技術に対する取り組みが見えてこない。先を見たものが書けると良いかと思う。	新しい技術については、先の時代を見て書き込んでいるつもりですが、加筆をしていく。水道については老朽化、下水道については、調整区域尾整備や有収率が上がらないことが川越市特有の課題であると考えている。(局長)	76	行っていることを記載。
53	4	3.2.3 強靱	64	上昇するマンホールポンプの老朽化率は、指標になじむのか。	根拠としては、業務指標を引用している。目標値として、老朽化が上がって行くことについては内部でも議論している。運用には支障が無いように日々維持管理しているが、再度内部で検討する。(センター長)	66	行っていることを記載。
54	4	2.2.3 持続性の確保	42	書き方の問題ですが、「効率的な事業運営」で水道と下水道でのバランスが悪いので、書き方を再検討して頂きたい。	事務局で検討させていただきます。	29, 30, 42	行っていることを記載。

第4回経営審議会までのご意見(川越市上下水道ビジョン原案)

No.	回	目次	頁	意見等・質疑内容	審議会での対応	記載頁	ビジョンの修正
55	4	3.2.4 持続	69	官民連携と広域連携とで、官民連携への取組が具体的に書かれているが、民間に委託したものは広域連携にしにくくなったり、民間のまま広域連携になるので、市から手が離れてしまうことがあるので、注意してほしい。 官民連携については、この程度の記述で容認できる。具体的な取組についてはあまり具体出来に書かない方がよい。上下水道は大事なインフラで、市民が責任を求められるのは市に対してだけなので、慎重にやってほしい(意見)	ご意見により対応無し。	71	事務局で加筆修正。
56	4	3.2.4 持続	80	経営戦略を考える上で、10年先、20年先を見越して、広域的なことも挙げられるなか、見解を広げる必要がある。水道・下水道は真新しいことはなかなかないかと思うが、この2事業以外の事業と併せて検討していく必要があると考える。ビジネスの視点で。	これから策定する経営戦略については、水道法の改正の中でもうたわれていることもあり、広域化・コンセッション等の在り方を中心に検討していく。広域化については、県が主体で推進するもので、本市ができることから、着手していくものです。(局長)		特になし。
57	4			このような、機会を得て、水道・下水道事業について知らないことが多いことに気が付いた。料金値上げの際には、裏付けが必要なので、経営が破たんするなど市民が解りやすいものを作ってほしい。(希望)	ご意見により対応無し。	30、43	事務局で加筆修正。
58	4'	3.2.4 持続	74	新たな技術の活用については、記載されているすべてのことを実行していくように見える。この中で何をいつ実行するかを明確にすべき。	閉会後のため、対応無し。	69、76	行っていることを記載。
59	4'	3.2.4 持続	83	G I Sを活用した意見・要望等の情報管理に関するイメージが解らない。	閉会後のため、対応無し。	85	図表・グラフを追加。
60	4'	3.2.4 持続	74	新しい技術については、記載されているので、過去の技術の変遷を示すことで、より分かりやすくなると思う。	閉会後のため、対応無し。	76	図表・グラフを追加。
61	部長会議	1.4.3 水源	8	「県水受水」「県水取水」との記述がある。図は、県水の取水図であるが適当か。			特になし。
62	部長会議	1.4.5 経営状況	13	「水道事業の根幹」との記述があるが、収入(もしくは収益)もしくは、財源ではないか。「料金収入」は「水道料金収入」ではないか。			特になし。
63	部長会議	1.5.5 経営状況	21	「使用料」は「下水道使用料」ではないか。「一般財源」は「一般会計」ではないか。「補助金を繰り入れて」は、「財政支援補助」という。		21	事務局で加筆修正。
64	部長会議	2.1.2 安定	26	個別音聴棒調査の目的を記載すべきでは。			特になし。
65	部長会議	2.1.2 安定	26	「有収率」の説明が必要。		資料5	用語集への記述。
66	部長会議	2.1.3 持続	29	「収益的収支の損益と推移」は、「収益的収支の損益と見込み」ではないか。		29	事務局で加筆修正。
67	パブコメ			上水道の利用量の減少を勧告し、恵まれた地下水の利用への転換を。	地下水は、災害時や大規模渇水への備えとしても重要な水資源である一方、水道水の安定供給を図るためには一定量の県水受水も必要となります。ご意見頂いたことを踏まえ、今後も、各井戸における水質や揚水量、設備の更新費用等を踏まえ維持管理を行いながら、地下水と県水のバランスのとれた水源の確保に努めてまいります。		特になし。
68	パブコメ			下水汚泥のバイオマス燃料化と併せて生ごみのバイオマスエナジー、IT・AIの急速進化を読み取った技術、経営、構造改革等の将来を見据えたビジョンを示されたい。	本市の下水処理は、荒川右岸流域下水道の新河岸川水循環センターと新河岸川上流水循環センターで県が一括して処理しておりますので、本市下水道事業として下水汚泥のバイオマスの燃料化は出来ない状況です。IoTやAIの利用につきましては、ご意見頂いたことを踏まえ、今後も技術の進化に注目し、新たな技術の活用により上下水道事業が抱える課題の解決や、お客様サービスの向上に向けて努めてまいります。		特になし。

第4回経営審議会までのご意見(川越市上下水道ビジョン原案)

No.	回	目次	頁	意見等・質疑内容	審議会での対応	記載頁	ビジョンの修正
69		パプ コメ		経営収支の改善のため、以前からの継続と維持管理から抜本的に将来に向けた発想の転換が求められる。	本市の上下水道事業を適切に持続するために、今後も経営収支の改善を続けていくことが必要と考えております。 ご意見頂いたことを踏まえ、従来からの取組を検証しながら、業務運営の改善や経営基盤の強化を図るための各種の取組を積極的に行ってまいります。		特になし。
70		パプ コメ		安易な民営化は自治体、議会、住民の立場が弱くなり、しかも後年の財政負担を招くことについて、さまざまな事例(水道だけでなく他の分野でも)が報告されている。高度な専門性が求められ、自治体職員が継承していったほしい。	民営化につきましては、ご意見頂いたことを踏まえ、民間のノウハウを効率的に活用するため、様々な官民連携手法の導入について検討し、サービスの向上及び持続可能な事業運営に取り組んでまいります。 また、人材育成につきましては、様々な研修や日常業務を通じて長期的な観点から技術継承に取り組み、事業環境の変化や新しい課題にも的確に対応できる人材の育成を引き続き行ってまいります。		特になし。
71		パプ コメ		水道料金の値上げに向けた文章も見られたが、更新工事をしていないところほど、水道料金が高くなっている。(和歌山県) 設備更新→料金高くするというのはいかがなものかと思う。	安全な水道水の供給を確保するためには、老朽化した施設・設備の適切な更新は避けられません。ただし、施設・設備の更新が一概な料金値上げを招かないよう、財政収支バランスや、施設・設備の更新を行わないことにより発生するリスク等を考慮し、慎重に検討してまいります。		特になし。
72		パプ コメ		広域化は、必ずしも住民のためにならないと考える。広く住民参加の計画を進めてほしい。	広域連携につきましては、本市ではまだ具体的な検討や議論が進んでいない状況です。今後、本市が主体となる可能性も含めて、県が設置する協議会等に参加し、市民の皆様のご意見を頂きながら、県や近隣事業体と検討を進めてまいります。		特になし。
73		パプ コメ		市は<川越広域水道企業団(仮称)>を検討し、その具体的な計画の策定を「川越市上下水道ビジョン(原案)」に盛り込む。	広域連携につきましては、本市ではまだ具体的な検討や議論が進んでいない状況です。今後、本市が主体となる可能性も含めて、県が設置する協議会等に参加し、市民の皆様のご意見を頂きながら、県や近隣事業体と検討を進めてまいります。		特になし。
74	4	参考資料 1	-	アセットマネジメントは、この通り事業が進むのかが疑問	老朽化に対する現実と理想の間にあるが、施設の状態を把握し、運用していくつもりである。(局長)		特になし。
75	4	参考資料 2	-	ストックマネジメントは、地震時の液状化も併せて検討すべき。	液状化については、市内でも東部地域に分布していますが、液状化の実績が無いことから、様子を見ながら進めて行く。(局長) 総合地震対策計画を策定し、マンホール浮上対策に着手しています。		特になし。
76	4	参考資料 3	-	雨水管理総合計画は、100年に一度の豪雨も頻繁に起きるので、大規模化する降雨に対する対応を。	雨水整備は公費になるので、市長部局と調整が必要であり、計画降雨を過大に捉えることなく現実的なものから着手する。(局長)		特になし。
77	4	参考資料 1	-	財政の見通しについては、今後の人口減少を加味しているのか。	来年度、経営審議会での経営戦略をお示しします。(局長) 今後の人口減少は見込んでいる。		特になし。
78	4	参考資料 1	-	突然このような資料を提示すると市民が驚くので、工夫して市民に分かっていただく努力も必要だ。(意見)	本ビジョンと併せて本資料を公表し、PRして行く予定である。(局長)	30、43	事務局で加筆修正。
79	4	参考資料 1	-	節水機器の器具や人口推計のみを根拠としているかの注釈が必要である。長期の推計を出すときは、変数をはっきりとさせるべき。	ご指摘の通り、注釈をつけて公表する。		特になし。
80	4'	参考資料 1	-	第3回経営審議会参考資料1のアセットマネジメントの方針③案では、災害時に水が遅れなくなるのではないかと、独自の更新基準では将来的に責任が持てない。			特になし。
81	4'	3.2.1 安全	49	評価指標の「現状値」を「実績値」に変更と明記すべき			特になし。
82	4'	3.2.3 強靱	61	評価指標「下水道排除基準超過率」について、参考資料ではなく、本ページに明記すべき。			特になし。
83	4'	3.2.3 強靱	64	評価指標の「設備点検」が現状から下がる理由を明記すべき。			特になし。
84	4'	3.2.4 持続	83	具体的な取り組みとして、「啓発活動」として良いのか。		83	具体的な方法を整理し追記。